

失語症の被災者 ケアを

自分の状況 うまく伝えられない

何が起きているか把握が難しく、自分が困っていることをうまく伝えられない……。失語症などコミュニケーション上の障害がある、そんな人たちも東日本大震災で被災したはず。専門家は「援助を求められずにいるのでは」と心配している。

「丁寧」に説明、安心させて「専門家

震災の6日後、仙台市の言語聴覚士、細川恵子さん(59)の携帯電話にメールが入った。

「寮(せう)」。2年前まで勤めていた東北厚生年金病院で、リハビリを担当した40代の女性からだった。脳卒中の影響で失語症になったが、働いて自活することを望み、市内でひとり暮らし。そこを地震に襲われたという。

女性の家はまだ電気が来ておらず、近くの病院でおにぎりをもらって、家で1人で過ごしていた。助けを求められたと感じた細川さんは、自宅マンションまでバスで来るように伝えた。すでに電気が復旧しており、食事を食べてもらったら、「うわー、温かい」と喜んだという。

失語症は、脳卒中や頭部外傷が原因で脳の言語中枢が損傷し、言葉がしゃべれなくなったり、相手の言葉がうまく理解できなくなったりする障害だ。国内に30万人以上いるとも言われる。

「彼女はメールが結構使える。たどたどしいが、何とか話ができるのもよかった」と細川さん。失語症のほか、発音がうまくできない構音障害など、コミュニケーションが難しい言語聴覚障害を抱える人は被災地にもたくさんいるはずだが、「現状把握は難しい」といふ。

そんな人たちのコミュニケーションを助けるのが言語聴覚士だ。新潟県の長岡中央総合病院で働く自黒文さんは2004年の中越地震当時、県言語聴覚士会の会長だった。大きな被害を受けた山古志からの避難者が集まる福祉避難所で、失語症の人たちはどう対応したらいいかわからない

「はい。いいえ」の質問で対話
「can.or.jp」に支援方法をまとめた。
失語症の人には「はい(うなずき)」「か」「いいえ(首振り)」で答えられる質問をする、といった具体的な方法を説明。そのほか自閉症や認知症、高次脳機能障害といった症状のある人についても支援方法を紹介している。摂食・嚥下障害の人への接し方や、絵文字を使ったコミュニケーションの方法も載せている。

「はい。いいえ」の質問で対話
「can.or.jp」に支援方法をまとめた。
失語症の人には「はい(うなずき)」「か」「いいえ(首振り)」で答えられる質問をする、といった具体的な方法を説明。そのほか自閉症や認知症、高次脳機能障害といった症状のある人についても支援方法を紹介している。摂食・嚥下障害の人への接し方や、絵文字を使ったコミュニケーションの方法も載せている。

失語症の人とのコミュニケーションの取り方

おなか すいてますか?

話しかけるときはゆっくり、はっきりと。一度にたくさん話さない

本人がうなずいた内容を再度、こうですね、とゆっくり確認する

文字や絵を示すと良い。漢字のほうがひらがなより分かることが多い

「あいうえお」の50音表は失語症の人には分かりにくい。原則使わない

※コミュニケーションアシストネットワークの「失語症の人への支援について」から一部を抜粋

(石村裕輔)